



2007. 3. 15

No.144

編集 樋口 みな子

E-mail

minginga@agate.

plala.or.jp

郵便振替

「銀河通信」

02740-7-56535

(6号分1,000円)

暖冬からいつの間にか春が

前副大統領のゴアが地球温暖化の危機を伝える「不都合な真実」を観ました。その事実を生活の中で実感する日々です。いつもの冬に比べても冬らしい寒さを経験しないままに春を迎えました。昨夜の激しい雨で、雪がずいぶん消えました。

雪かきはやっかいですが、山登りのトレーニングに最適です。でも今年は数回の雪かきしか記憶にありません。新聞の天声人語に動物学者の日高敏隆さんの本から教えられた事を記していました。多くの虫にとって冬の寒さは必要不可欠だそうです。休眠する虫たちは、5度以下の低温に晒されることで、春を迎えるための変化が体内で進み、チョウの場合、寒い時期を十分に過ごせなかったサナギは、卵もあまり産めない、ひ弱な成虫になるそうです。冬はやっぱり寒いほうが自然界の生き物たちには大切なことを知りました。そういえば自宅の庭で、毛虫を見たのは2月の末でしたが、か細く元気が無かったです。

今年もあっという間に2ヶ月が過ぎてしまいました。分水嶺踏査の余話の編集に携わる機会があり、たくさんの原稿を入力したり、校正したり。本になるのはもう少し時間がかかりますが何度も文章を読み直し推敲することの大切さを学びました。私がパソコンに向かっていると家族が「発行出来そうなの？」と気にかけてくれました。

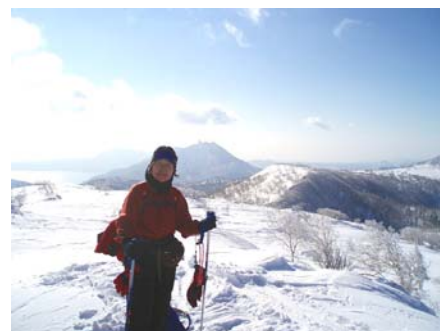
山に登るだけでなく、山岳会の中で自分のやれることがあれば積極的にやって行きたいと思えるようになったのは家族の理解があればこそです。息子もなんとか大学2年生になります。夫からは「雪崩には気をつけて」と山に行くたびに言われます。安全登山を心がけて、気象にも注意を払っています。地図はいろんなことを教えてくれます。林道や送電線、尾根や沢の屈曲や分岐や急斜面か緩斜面か、がけ地か等。



紺碧の空に春を待つダケカンバの樹氷

今年は体力を付けること。地形図に学びながら山を楽しみたいと思っています。

私らしい環境や平和を守るために、何が出来るだろうかと考えたとき、通信で伝えることだと思っています。職場はないけれど、講演を聴いたり、映画や本を読んで感じたことを伝えていきたいと思っています。



2月25日 恵庭岳をバックに空沼岳頂上で

美瑛富士避難小屋にトイレを

山のトイレを考えるフォーラムが開かれました

山のトイレを考える8回目のフォーラムがかでる2.7で開かれ、登山者や研究者など70人が参加して熱心なディスカッションが行われました。

講演は筑波大学の環境科学科の伊藤太一先生が「富士山および南アルプス南部に置ける施設整備とその費用負担」について比較検討しました。

富士山は平安時代に遡る登山の歴史があり、現在年間20万人が登山している。富士山の世界自然遺産化の動きの中でトイレ問題が浮き彫りにされた。

現在では静岡側24カ所、山梨側20カ所の最新トイレが整備されているが5合目以下にはトイレがない。

南アルプス南部では、県や市が小屋を設置し、それらの管理を東海フォレストに委託。さらに東海フ



ォレストは路線バス終点から登山口に至る区間に送迎バスを導入している。04年からは利用者は宿泊施設利用券3,000円を払って乗車する。2食付き7,500円の宿泊に充当される。日本で唯一山岳レクリエーションを民間企業が管理していると言います。

民間企業なので、維持管理の手間や費用を検討してトイレの方式は、営業小屋は水洗、避難小屋はカートリッジ式主体で、年に1~2回のへりによる搬送を行っているとのこと。

大雪山では、レンジャーが巡回して管理を兼ねて料金を徴収したらどうかと提案しました。

北アルプスで山小屋を経営する穂刈康治さんは「「山のトイレとエコトイレ 日本と北欧の経験から」と題する講演。それぞれの山小屋で、いろいろな方法を試みている。TSS非水洗方式が肥溜めと畑の機能で、汚水を浄化処理するという仕組みは昔の肥溜めで熟成させて畑に入れて肥料として利用するという、電気や水を使わなくても処理できる点でとても優れているとのこと。

スウェーデンのエコトイレはDon'T Mixという言葉に要約される。つまり、汚水を分別し、種類別に処理することにより、再資源化、処理方法が容易になるという考え方です。日本でも普及したらいいなと思いました。

ディスカッションでは山のトイレ維持管理のあり方、黒岳バイオトイレの改善に向けて、山トイレの有料化と課題、美瑛富士避難小屋にふさわしいトイレと維持管理の仕方などが論議されました。

山のトイレのHPを担当している、仲俣善雄さんが美瑛富士避難小屋に似合うトイレを提案。環境に配慮した、固液分離型であること。非水洗。便はカートリッジ方式でへりで搬出。尿は人工土壌処理地下浸水方式。室内灯はソーラー発電。資料集に具体的な図があり、とても分かりやすかったです。

私たちが集めた3万筆近い署名の力で、実現して欲しいです。環境省のお役人も討論に参加していましたが、私たちの意向を大事にしたいという気持ちが見えて嬉しかったです。

お便り

何事も一生懸命に取り組む姿勢が感じられ、優しい笑顔にかくされた熱い思いを垣間見た気がしました。時間のあるときは太極拳で、筋肉をほぐし、鍛えてください。

(江別市 K・Nさん)

「進化する」銀河通信に驚いています。みな子さんの活動ぶりにも、加齢はサボリの言い訳にすぎないなあと反省。(鎌倉市 O・Tさん)

「銀河通信」が満19歳を迎えるとの由、重ねてお祝いとその努力に乾杯！！

(登別市 K・Tさん) 7月で19歳です。

大展望の山 守屋山



山の環境ネットの部会長の皆さんと

日本山岳会の自然保護委員会の会議があり1月25日に上京しました。大きな目的は、山の環境ネットの活性化のための打ち合わせでしたが、山川さん、富沢さんらが、遠方から出席する私のために近場の山の登山を計画して下さいました。

26日、快晴の国立駅を7時45分、山川さんの運転で車で出発。メンバーは4人です。高速を走り2時間半で諏訪インターチェンジを降り、杖突峠からすぐが守屋山の登山口です。

登山靴にロングスッパツを付け、歩き始めたのは10時半でした。たくさん登山者が歩いているらしく、雪は締まっています歩きやすい。

春には沢べりにザゼンソウの群落が素晴らしいとのこと。小さな広場を過ぎるとカラマツの植林地帯を歩く。青空の中に雪をかぶったカラマツが美しい。大きな足跡はタヌキでしょうか？この緩斜面を過ぎると、胸突き八丁のきつい登りです。私以外のメンバーは軽アイゼンを付けましたが、気温が高く雪が締まっていたので快適に歩きました。

12時5分、守屋山東峰に立ちました。そこには、北岳、甲斐駒ヶ岳、八ヶ岳など、南、北、中央アルプスが360度の大きなパノラマ



南、北、中央アルプスの連なりが一望に

で見渡せ、「すごい！素晴らしい！」の言葉しか出ない。私は学生時代に南アルプスの小さな山に一度登ったきりですが、こんな大展望は見たことがなかったです。幾重にも峰々が連なり、カメラに収めきれないほどでした。しばし、声もなく目に焼き付けるように見とれていました。のびやかな霧ヶ峰や美ヶ原の高原に諏訪湖が雄大な風景の中に優しさをたたえていました。ここでランチタイム。平日なのに、2組の登山者が登って来ました。ここから約20分で西峰です。三角点があり、御嶽山が正面に見えます。往路を引き返し、登山口には14時55分でした。

2時間かからずに登れるのに、展望の素晴らしさは抜群で心洗われました。

深雪とホワイトアウトのイワオヌプリ



雪煙の巻き上げる稜線
写真：長谷川雄助さん

2月3日、函館や札幌から山岳会の会員などが、ニセコ五色温泉駐車場に集合し、イワオヌプリにスキーとスノーシューで登りました。

交通事情などで、遅く着いたメンバーを待ち、10時40分出発しました。私たちスキー組は、894mの台地に向かって登山を開始しました。トップは佐藤守SLです。男性が多いのでラッセルを免除され、イワオヌプリと小イワオヌプリの間の斜面をジグを切りながら登るが、斜度がきつくてなかなか前に進まない。ようやく尾根に出たがすごい強風で、何度も転びそうになりながら進みました。やっと頂上に着いたのは12時30分でした。

ホワイトアウトで何も見えない。強風を背中に受けて、足を踏ん張り、立つのがやっとの状態の中、男性の一人が一瞬で足をすくわれて転倒。強風の怖さは分水嶺踏査でも体験しましたが、油断は大敵です。食事する余裕はなく行動食をとりながら、鈴木和夫SLの指示に従い慎重に下山を開始しました。

かなりの急斜面もありましたが、斜滑降を繰り返し、とにかく安全を心がけて降りました。私はホワイトアウトのおかげで、急斜面への恐怖感がな

かったのは幸い？でした。駐車地点に着いたのは14時5分でした。

温泉で汗を流した後は19人の大宴会。それぞれが自己紹介して交流を深めました。

私の尊敬する「日高辻路」の著者である神原照子さんが、登別嶮友会のメンバーと宿泊していて、交流会に合流して楽しかったです。



「日高辻路」の著者神原照子さんと

山スキーで快晴の空沼岳に

2月24日、砥石場の橋から山スキーに泊まり装備の重いザックで6時40分に出発しました。メンバーは同じ山岳会の3人。長い林道を歩いたので万計山荘に着いたのは10時半です。雪で入り口がふさがれていたため、スコップで階段をつけて小屋に入りました。

十分に空沼岳までいける時間でしたが、薪ストーブの暖かさにすっかりのんびりして、ここで宿泊を決めました。こんなにゆったりと過すのは久しぶり。きれいに清掃されたトイレも快適でした。

ところが静寂を破るように、スノーモービルの軍団が万計山荘に、けたたましい音を立てながら到着。山は静かに楽しみたいですね。最近はこの山でもスノモの集団が占拠しているのがわかります。雪崩を引き起こすこともあるのではないかと不安を覚えました。

25日4時起床、快晴。6時40分、空沼岳を目指してジグを切りながら進みました。頂上近くから2メートルはありそうな雪庇が張り出していて怖かったです。頂上からは羊蹄山、恵庭岳、支笏湖などが見渡せ素晴らしい眺望が楽しめました。

帰りはパウダースキーを楽しみながら下山。万計山荘からは、重いザックをまた背負い夏道を進みましたが、モナカ状の雪に変わり、スキーが下手な私は何度も転びながらやっと下山しました。



快晴の空沼岳で 写真提供
佐藤守さん（自動シャッターで）



遠く羊蹄山をバックに

平和な未来のために

国際女性デー全道集会に参加しました。

3月8日、国際女性デー全道集会がかでる2.7で開かれ、満員の600人以上の女性たちで埋まりました。

オープニングは、夕張で炭坑マンの夫と結婚して音楽活動を続けてきた波多野信子さん（現在は、石狩市に在住）が自作した「炭鉱（ヤマ）の子どもの子守歌」など3曲をピアノを弾きながら言葉をかみしめながら熱唱しました。

フリージャーナリストの西野瑠美子さんが「女性たちは戦争をする国づくりを許さない」と題して記念講演をしました。

西野さんたちはVAWW-NETジャパンを1997年に東京で開かれた「戦争と女性への暴力」国際会議をきっかけに発足。「慰安婦」問題、米軍基地下の性暴力、武力紛争と女性への暴力、国家主義と軍事主義の問題などを軸に活動しています。

従軍「慰安婦」問題を裁く女性国際戦犯法廷のNHK番組が改ざんされた問題について、当事者たちの証言も紹介しました。改編は、安倍官房副長官（当時）ら「慰安婦」問題を否定する「若手議員の会」の主張にそうものだったと訴えました。

安倍政権は米議会下院の日本軍「慰安婦」に関する決議案に危機感をもち、軍当局の関与と強制を認めた河野談話を修正しようとしていると訴えました。

西野さんは「戦争は人びとが沈黙したときにやってくる。」一緒に声をあげましようと呼びかけました。

声をあげずらい世の中を変えて行くことでもあると思いました。NHK番組で改編した事実を内部告発した職員は、左遷されたそうです。それでも生き生きと頑張っているそうです。「真実は人間を動かす」と西野さんは言います。

国際会議の事についてももう少し話していただけたら理解も深まったと少し残念でしたが世の中を変えて行くのは、私たちひとりひとりなんだと改めて勇気づけられました。

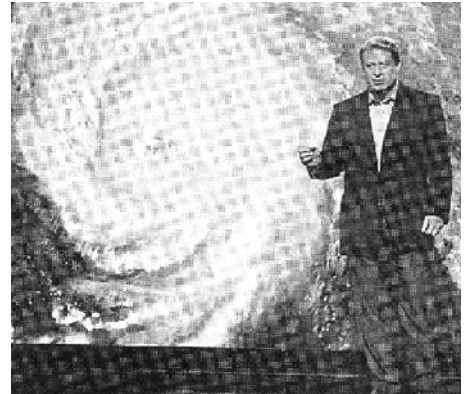
「不都合な真実」 (米国)

監督 ディヴィス・グッゲンハイム

映画

ゴア前副大統領が地球温暖化の危機を訴えるドキュメンタリー映画です。

ゴアは世界各地でグラフや写真を使って1000回もの講演会を開いて、地球温暖化を警告してきました。アメリカ政府が不都合な真実に目を背けてきた事を批判します。特にアルプスやキリマンジャロなどで氷河が急速な勢いで溶けていっている現実を、数十年前の写真と現在の比較写真で示し温暖化がリアルに伝わります。



二酸化炭素濃度が自然を大きく逸脱していることを、ゴアはクレーンに乗って上昇し跳ね上がったグラフで示しました。分かりやすく地球の危機を訴えた映像に衝撃を受けました。ハリケーンなどの大災害や、集中豪雨。海面上昇が進むニューヨークやサンフランシスコなどの実例を示して、私たちの生命や日常生活が脅かされている事がリアルに伝わります。

環境破壊の最たる戦争はすぐに中止して、石油や核のゴミを残す原発からの脱却を図ること。自然生態系を壊さないこと。この映画から、あきらめずに訴え続けることの大切さを教えられました。

映画の最後に流れる音楽が心に響きます。「無関心をやめ、不都合な真実に耳を傾けよう。目を覚まさないや」。

我が家でも省エネに取り組んでいます。今年の春は庭に木を植えたいと思います。1本の木はその成育中に1トン以上の二酸化炭素を吸収できるそうです。



「恋するトマト」

企画・脚本・制作総指揮・主演 大地 康雄

いのちを創り出す農業は、きつい労働の上に減反政策などで経営は厳しい。

年老いた両親と農業を継いでいる中年の野田正男（大地康雄）が主人公です。何度見合いしても、ことごとく上手くいかない。パブで働くフィリピン女性と知り合い、彼女の両親にあいさつのためにフィリピンへと旅立ちますが、結婚式の日女性とその家族に正男の全財産を持ち逃げされてしまいます。貧しいフィリピンの現実が目前にありました。一方では路上生活者から「クマインカナバー」ごはん食べたか？一緒に食べるか？と相手を気づかう優しさにも出会います。

正男は、農業を忘れ、フィリピンの少女たちをダンサーとして送り込む仕事につきます。この飛躍にはえっ！と納得しがたかったです。

車で通りかかった農村で、汗して刈り入れをしている家族に故郷を思い出す正男。そこで働く知的で美しいクリスティナは「大切なものは土と水と太陽」と言います。農業を手伝っているうちに、農業の誇りを取り戻して行きます。正男は、この家族に大玉のトマト栽培の仕方を教えるのです。実際、現地で日本人でトマト栽培をしている人の指導を受けたそうです。

同じ価値観をもつクリスティナに惹かれる正男は求婚しますが……。クリスティナに病気を抱えた父や家族を置いて日本に行くことはできないと断られてしまいます。でも彼女の農業へのひたむきな気持ちは、正男に農業で生きる決意をさせるのです。

故郷で農作業をする正男。フィリピンのクリスティナ家族もようやく大きなトマトが畑一面に真っ赤に熟して、喜びの笑顔があふれます。このシーンがなんともいっても圧巻です。この場面を撮るのに6年の歳月がかかったそうです。いのちを生み出す農業よ、もっと大事にしてと訴えかけます。



「明日へのチケット」伊・英

監督 エルマンノ・オルミ、アッパス・キ
アロスタミ、ケン・ローチ

ローマ行きの特急列車に乗り込んだ、様々な人種と階級の人々。彼らが手にした1枚の乗車券をめぐる3つの物語を3人の監督のそれぞれの見せ方で微妙に連ねます。

老教授、将軍の未亡人と兵役義務で奉仕する青年、スコットランドから、サッカーの応援に行く3人の少

年、アルバニアの難民家族。長い旅が彼らの人生を変えて行くのです。

特に良かったのは、ケン・ローチが描いたサッカーファンの少年たちが出会った難民家族にとって、1枚の乗車券がいかに重いかという話です。少年達は、スーパーで働いてようやく手にいれた乗車券です。難民の少年がその1枚を盗むのです。非は難民の少年にあるのですが、サッカー少年達は、難民が貧しくいかに虐げられているかを知ります。家財を売り、何年も会っていない父と暮らしたいと列車に乗ったのです。難民の少年に切符をあげたら、自分は無銭乗車で捕まります。どうするのだろうとはらはらしながら私も見守りました。サッカー少年達の心の変化が感動的。同じ世代の私の息子だったらどうするだろうかと考えさせられました。

ローマ駅で、父との再会を果たす難民家族に、少年たちの喜びが爆発します。このラストが素敵です。

1枚の乗車券がもたらす哀しみ、不安、残酷さ、不平等。それでも失わない愛と希望の物語でした。ケン・ローチの貧しく虐げられた人々に寄せる、慈しみの視線に共感しました。

私も彼らと一緒に旅して新しい可能性に胸が躍りました。

「紙屋悦子の青春」

監督 黒木 和雄

戦時下の庶民の慎ましい暮らしを丁寧に描き、生き残った者の心情を静かに伝え、戦争の非情さを浮き彫りにした作品です。

出撃前夜、悦子（原田知世）に別れを告げ、満開の桜が舞い散る中を去って行く明石。悦子はもう会うこともない悲しみに泣き尽くします。密かに思いを寄せていた人でした。明石の親友である永与（長瀬正敏）とこれからの長い人生を共に生



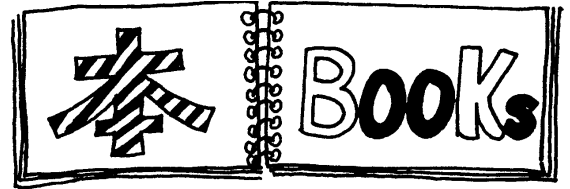
きる決意をする悦子。残された者同士の悲しみが伝わってきました。

舞台は、終戦を間近に控えた鹿児島県の田舎町。二人の青年が美しく純朴な悦子に恋をして、悦子もまた一人の青年に胸ときめかせます。しかし、戦争は若い命を奪い、生き残った者の心にも生涯消えることのない傷跡を刻み込んでいきました。

戦時下の切ない恋を現代に蘇らせ、今を生きる私たちに戦争のむごさと、決して忘れてはならない記憶を問いかけます。

「父と暮らせば」の監督らしく、今回も、九州弁で交わされる会話の美しさに引き込まれました。声高に戦争反対という映画ではありませんが、庶民の暮らしを丁寧に描写し、かけがえのない未来を奪った戦争のむごさが胸に迫りました。

黒木和雄監督は、公開初日を前に急逝。75歳でした。戦争の無惨さをいつも静謐な映像で伝え続けた人でした。残念です。



家のロマンス

加藤幸子著 新潮社
1400円



北原白秋が前住者だった西洋館にまつわる半世紀に及ぶ歳月を、病床にある明治生まれのミヤが回想する第一部「祖母ーミヤ」。第二部「孫娘ーヨシノ」で西洋館の崩壊と新たな家を求めて繰り広げられる悲喜劇が語られます。

家と同化し、溶けあっていたと実感するミヤは、敗戦をくぐり抜けた子どもたちが、不自由な雑居生活を選び続けた理由はこの家があったからだと思う。

家には何か不思議な力があるようです。私もこの本から、祖母とその家族、日高の山奥にあった平屋の大きな家を思い出しました。

私の祖母の名もヨシノであったのも、偶然ではあっても不思議な縁を感じました。

数年前、100歳で亡くなった祖母ヨシノは11人の子どもを生み育てました。私の母は長女です。孫娘のみな子は、家庭の事情で小学校入学前の半年間を祖母の家族と暮らしたこともありましたが、学校に上がってからは夏休みを祖母の家で過ごすのが常でした。

叔母たちは結婚して家を出て行き、小さい叔母たちは中学生でした。夏休みであっても昼間は家族総出で農作業に出るので、私は沙流川の浅瀬でザリガニを捕ったり、それも飽きたら小高い山に登ったりの日々を過ごしました。大きな家にひとりでいるのは恐くて、祖母達が帰ってくる夕暮れが待ち遠しかったことを思い出します。叔母たちがそれぞれの家族と集まったお正月のにぎやかさと、布団を並べた壮観さが目に浮かびます。中学生の叔母について授業？を机の下で受けたこともあります。カリズがパアッと転がって赤の鮮烈さと笑いがはじけた教室の情景が映像のように残っています。

にぎやかだった祖母家族も娘たち（私の叔母）が苦小牧の高校に進学したり、結婚したりで、山林を処分して苦小牧に家を建てて転居しました。私の故郷は無くなったのです。祖母ヨシノは気丈な人でしたし、祖父が亡くなってからも長生きをしましたが、生き生きしていたのは平取の大きな家を仕切っていた頃でした。

著者は家が解体された後の人の在りように「家」の意味を見いだしています。人が死んでもなおも生き残る家の力を描き出していて、この感覚は私にもわかるような気がしました。

祖母はきっと風になって平取の畑を耕しているのではないかと思えて、この本に出会えたことに感謝しています。

円朝ざんまい 森まゆみ著 平凡社 1800円

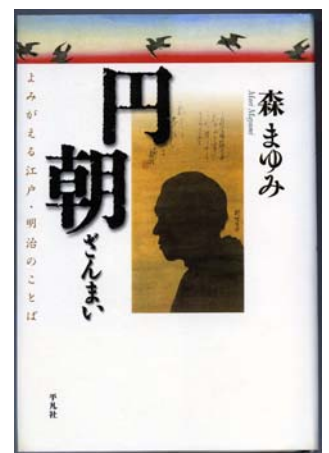
三遊亭円朝は幕末から明治時代に活躍した落語家です。本書は円朝作品を紹介しながら、円朝が連れていた弟子のぼん太もどき相棒と、谷中界限や熱海、宇都宮、上州路を旅する道中記です。著者は地域雑誌「谷中・根津・千駄木」の編集人です。

円朝は作品の場所をよく歩き、作品の参考にしたことが良くわかります。円朝が健脚であったことも伝えています。日光の霧降滝まで歩いて行った時に円朝は「木の枝に取付き命をちぢめてやうやう滝壺に来る滝巾十八九丈落つる水岩にまとひ、岩に当たりてはくだけ散りて霧の降る如くなり。」と記しています。臨場感がありますね。

円朝の高座や速記本は近代文学に大きな影響を与えました。二葉亭四

迷や坪内逍遙の言文一致体は円朝にはじまったと言います。

円朝の使った言葉は簡潔で無駄がありません。江戸ことばの粋も感じます。「牡丹灯笼」「塩原多助一代記」「鰻沢」「文七元結」など今でも演じられる怪談噺、人情噺の作者でもある円朝は英国女王イリザベスを題材にした作品もあります。「民間の女でも、智慧の有る者は電信局や郵便局へ勤めて相応の給金を貰って、自分一人は亭主や子供の厄介にならずに、十分に暮らして行くといふ話だ・・・」と明治時代に新しい女性観を持っていたことも新鮮でした。



あとがきに『書いている間「言葉は国の手形さ」という円朝のセリフが、ずっと耳にこだました。この「くに」とは多様で独立した文化を持つ日本各地である。「くにの言葉」は国家が押しつけた標準語ではない。山にひだがあり、浜に切れ込みある。谷ひとつ、入江ひとつ隔てても言葉は違うのである。』とあります。

円朝は旅で見たり聞いたりしたことを作品に生かした人でした。円朝が表現する言葉には品があります。ぴたりと表す人情の機微も味わうことが出来ました。

今度は是非、落語で聞いてみたいと思いました。（7ページからの続き）

雪山に遊ぶ

日帰りであり遠くない山を時々楽しんでいきます。3月4日は厚別方面の某登山教室の健脚グループと月形にある分監山にスノーシューで登って来ました。

かなり斜面はきつかったですが、すごい早さで登って行くメンバーに驚かされました。気持ちのいい汗をかきながら2時間足らずで頂上でした。眼下に伸びやかな空知平野が広がり、樺戸山塊が白く輝いていました。

下山は50分であっという間に駆け下りました。



3月4日分監山頂上
樺戸山塊をバックに



2月8日 大沼山頂上で。山の仲間と
撮影 山内忠さん

左は旧豊羽小学校から山スキーで登った大沼山です。晴れていれば羊蹄山が見える眺望の山ですが小雪がちらつき、無意根山がようやくかすんで見えただけでした。

スキーが下手で転びまくり、密かに山スキーの練習を決意した山でした。

購読料をありがとう 06年12月27日～07年3月3

笹林陽子（山形市）京極紘一（札幌市）助田梨枝子（芽室町）亀田法子（江別市）伊藤康弘（札幌市）海老名名保（札幌市）笠井嗣夫（札幌市）大友芳博（札幌市）綾音たまき（豊前市）太田肇・朋子（鎌倉市）仮屋志郎（札幌市）滝本幸夫（札幌市）大西一郎（伊達市）小栗宏（枝幸町）亀貝一義（札幌市）吉岡真喜子（夕張市）笹島秀則（様似町）小枝正人（札幌市）住田真樹子（石狩市）安念信子（江別市）青木博信（札幌市）福原正和（札幌市）80円切手60枚 疋田英子（稚内市）切手北芝梅子（京都市）80円切手50枚 加藤幸子（大田区）著書「家のロマンス」（敬称略）

37,000円と切手は、印刷、送料に使わせていただきます。ありがとうございます。